

## ナマコの香港・広州見聞録

### なまこの道は香港から世界に通ず

魚類部 技師 廣田 将 仁



海産乾燥製品をとりあつかう商人の集積（香港・広州）

乾燥ナマコ輸出のための計画的生産技術の開発事業では社会経済的な整理も行っています。以下、この整理について紹介します。

江戸時代ころから乾燥なまこは「煎海鼠（いりこ）」と呼ばれ「干しあわび」「ふかひれ」と並ぶ中国への交易商品のひとつでした。これらは俵物三品（俵につめて運んだことからこの名がついた）として広く知られ、古くからナマコを食べる習慣のある中国では、中華料理の高級食材として使われていたようです。

時代は大きく下って平成の現在、中国の経済成長に伴って生活の豊かな人々が増え、再び中華料理の高級食材として注目をあつめるようになりました。特に日本産の乾燥なまこはイボが尖っているなど品質が良いとされ、北海道と青森産のものはもっとも高級であるとされています。

日本でつくられた乾燥なまこは、海を越え中国に向かいますが、近年はその大半が香港にゆき、そのあと中国本土をはじめ世界中にわたり中華食材として利用されます。乾燥なまこがまず香港に向かう理由は、中国南部の広東料理で多く利用されてきたこと、香港が自由貿易港で関税がかからないことなどいくつかあります。しかし大事なことは、香港には古くから乾燥なまこや干しあわび、フカヒレといった俵物の類（たぐい）を扱う商人が集まっており、中国や世界に向けて流通させるうえで代金決済など取引を円滑におこなうための役割を担っているということです。このような役割

を担う人々がいないと産地としても安心してナマコを獲り、乾燥品として出荷することができません。いわば「安全弁」の役割といったところでしょうか。

世界中から香港に集まってきた乾燥なまこは、次に「国境を越え」、隣接する広東省の省都である広州市に向かいます。香港は1997年にイギリスから中国に返還されましたが、中国と行き来するには今も出入国審査や通関手続きが必要なのです。香港から広州に運ばれた乾燥なまこは、海産乾製品の専門の市場など沢山の商人を経由して広東料理の食材として、またさらに遠く中国北東部に流れていくこととなります。このように、日本や東南アジアほか、世界各国の生産地から送られてきた乾燥なまこは、香港の商人、広東省広州市の商人を経由して、円滑に中国や世界に流れていくという仕組みが形づくられてきたという“歴史”があることが分かってきました。

#### なまこ製品の広がり

さて、最近のナマコ需要の急増は中国の富裕層がナマコを求めるようになったことによりますが、どこまでふえていくのかという疑問の声はよく聞かれます。例えば、北京オリンピックや上海万博の終了まで、あるいは中国のバブル経済が崩壊するまでなどはよく耳にする話です。しかし一方で、今後も農村地帯から都市部に安い労働人口が移動していくため、オリンピックやバブル崩壊があったとしても、なお経済成長は続いていくという見方もあります。いずれにせよ、一度



塩蔵ナマコ (左) と乾燥ナマコ (右)

ナマコを食べた消費者はつづけて食べるであろうし、加えて中国人にとってナマコは「健康食品」という考え方があることから、並はずれて健康意識の高い中国においてナマコ需要が小さくなるということはなさそうです。

ところが、こと値段に関しては少し事情がちがうようです。香港の商人も、日本の輸出者もすでに乾燥なまこ価格は天井に届いており、これ以上の価格上昇はむずかしいと見ています。そんな中、乾燥なまこよりも製品価格の安い塩蔵なまこが登場したり、従来のものより品質のレベルは若干劣るけれどもその分、価格の安いものが登場したりして、需要の底辺を広げているようです。このように、わずかに価格の安いものが次々に商品化される様子は宝飾品や他の食品などでもよく観察され、一般的に「市場成熟化の中での商品競争」と呼ばれます。つまり、需要が多いからといって簡単に流通するのではなく、流通に携わる人々のあいだで商品の種類を増やしながらか低価格の競争が行なわれている段階に入ってきているということを示している現象です。

### 懸念されているナマコ資源

中国の需要が今後もつづき、流通のあいだで競争がはげしくなるとすれば、懸念されるのが資源の問題です。古くからナマコを取り扱ってきた香港の商人からは、最近あたらしくナマコを取り扱いはじめた人々の急増を警戒し、資源の悪化につながるのではないかと懸念する声が聞かれます。需要が安定し、資源も十分に管理されていれば、今後も高い価格水準で末長く取引を続けることができ、流通と漁業者の双方にとって

よいという話も聞くことができます。しかし、利益のあるところに新しい参入が生じることは止めることはできないため、生産者は資源の管理とともに増加に対しても考慮していく必要があるのかもしれませんが。

また、資源の悪化に関連して懸念されているのは、ナマコが絶滅危惧種としてワシントン条約 (CITES) により国際間の取引が制限される可能性があることです。適切な資源の管理がなされなければ、国際商品であるナマコの取引が制約され、ひいては予期せぬ需要の縮小を招く可能性は高いと考えられます。このような事態を避けるためにも、生産者による持続的な生産体制を考えていくべき段階にきているようです。

